

ナテシコ科 ハコベ属

イヌコハコベ (犬小繁縷)

Stellaria pallida (Dumort.) Crép.

自生環境

道ばた、畑地 など

原産地

ヨーロッパ

予想される被害

駆逐 交雑



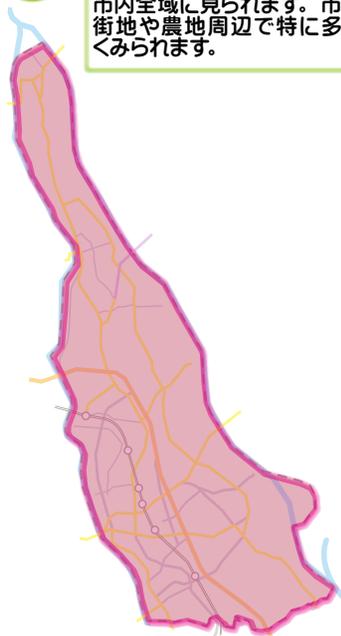
2000年代に入ってから急増しました。在来で同じ仲間のミドリハコベと同じようなところに生えるため、生育場所を奪ったり、お互いに交雑しあったりする可能性があります。

特徴

- ☆ ヨーロッパからやってきたハコベの仲間です。1978年に千葉県船橋市で最初に発見された後、分布を拡大し、現在は市内でも道ばたや農地周辺で普通に見られます。
- ☆ 茎は株元でいくつも枝分かれして、横に広がるように伸びていきますが、節々から根を出すことはありません。同じ仲間のミドリハコベやコハコベは、季節に関係なくダラダラと開花・結実する傾向にありますが、イヌコハコベは春の開花後は枯死し、夏の間はほとんど姿を見なくなります。
- ☆ 花には花びらがないものの、5枚のがくが開いて、まるで緑色の星のように見えます。花や果実を横から見ると、がくの根元の部分が赤紫色になっています。

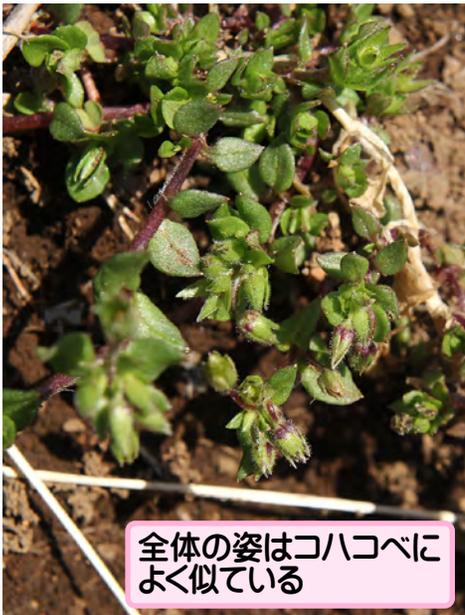
市内の分布状況

市内全域に見られます。市街地や農地周辺で特に多くみられます。



食べられるかは不明

従来からハコベと呼ばれているものには、日本由来のミドリハコベと、昭和年間に渡来したヨーロッパ原産のコハコベの2種類があります。ミドリハコベとコハコベは非常によく似ていますが、幸いなことにどちらも食べられるため、実用上は問題ありません。問題はイヌコハコベです。おそらく無毒とは思いますが、情報に乏しいため、何とも言いえないのが現状です。



全体の姿はコハコベによく似ている



日当たりのよい場所では全体的に赤紫っぽい色になる



タネは0.7mmくらいで、コハコベよりも小さい



花には花びらがない



がくの根もとが赤紫色になる



日陰ではがくの赤紫色がはっきりしないことも



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

